

# 銀閣寺山国有林における マツ林再生の取組

—大文字保存会との連携を中心として—

京都大阪森林管理事務所 主幹(造林担当) 城尾 あすか  
特定非営利活動法人 大文字保存会 副理事長 長谷川 綉二

# 発表項目

1. 銀閣寺山国有林の概要
2. 大文字保存会の概要
3. マツ林再生の取組
4. 成果と考察

# 1. 銀閣寺山国有林の概要

■ 位置: 京都盆地の東側、東山に連なる

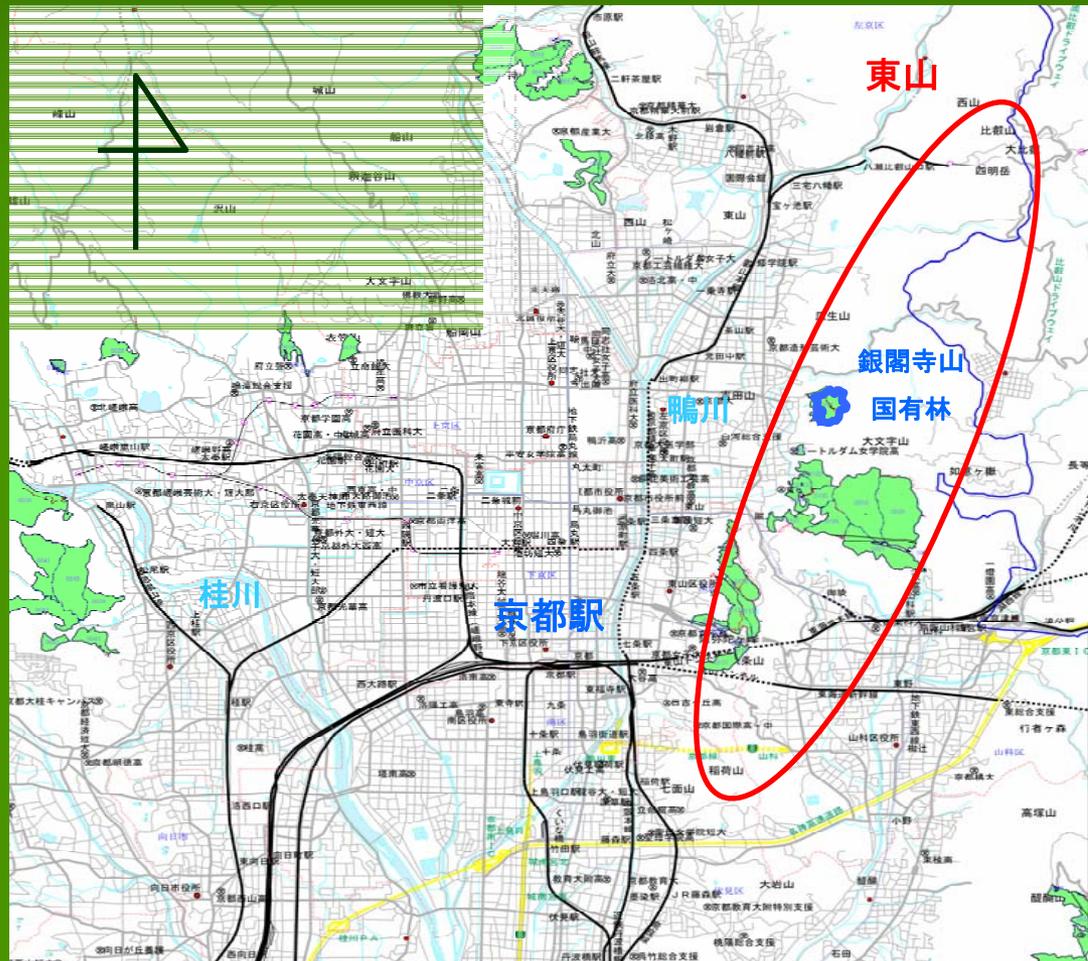
■ 面積: 23.89ha

■ 法規制:

土砂流出防備保安林、  
風致保安林、  
歴史的風土特別保存  
地区、  
風致地区、  
鳥獣保護地区

■ その他:

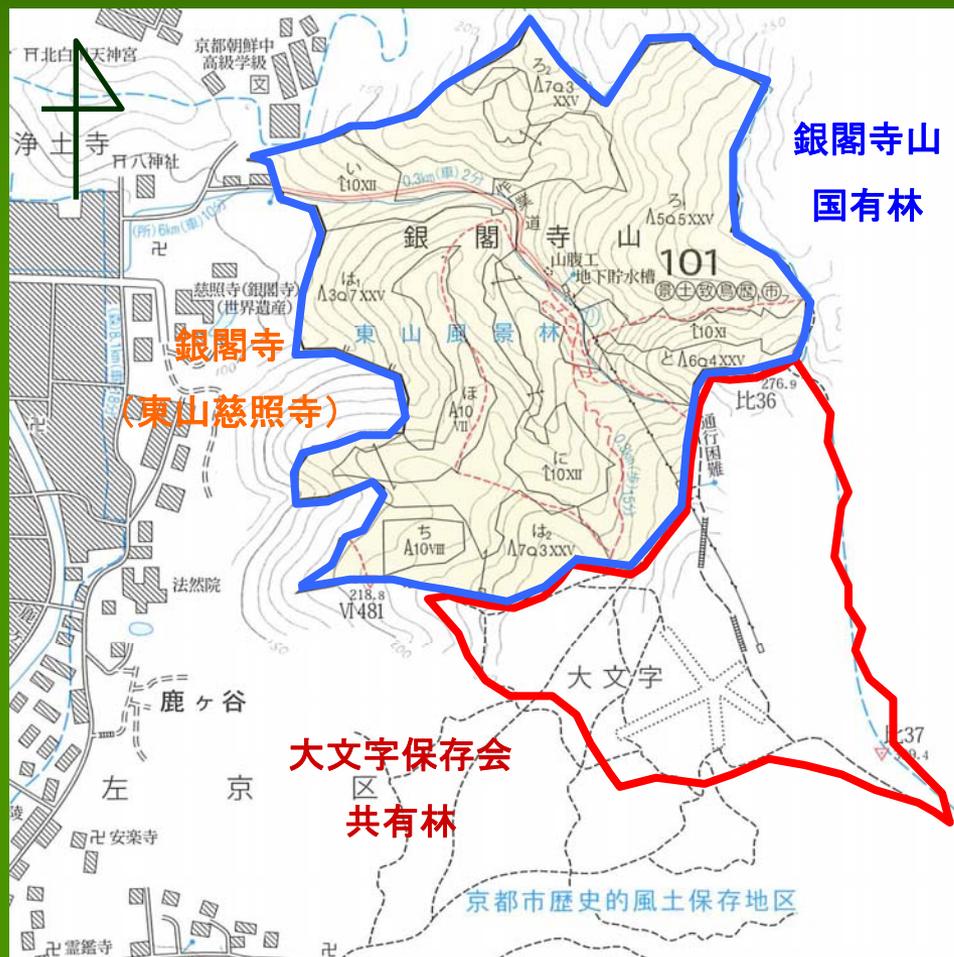
「世界文化遺産貢献の森林」「東山風景林」



# 1. 銀閣寺山国有林の概要

銀閣寺山国有林は

特定非営利活動法人  
大文字保存会の  
共有林と隣接



# 1. 銀閣寺山国有林の概要

## ■ 歴史

～江戸時代 銀閣寺の寺領

明治4年 「社寺上知令」により  
国有地に編入



## ■ 施業の方針

銀閣寺の庭園と一体化した景観づくりに取り組む

昭和29年から松くい虫被害増加



アカマツ林の著しい減少

## 2. 大文字保存会の概要

特定非営利活動法人 大文字保存会

### ■ 組織

旧浄土寺村の旧家 47家で構成

### ■ 共有林

「大」の字の周辺 約12ha

### ■ 目的

毎年8月16日に灯される「大文字送り火」の運営及び、送り火に使用する割木（護摩木）調達のための共有林の手入れ

## 2. 大文字保存会の概要

### ■ 「五山の送り火」とは？

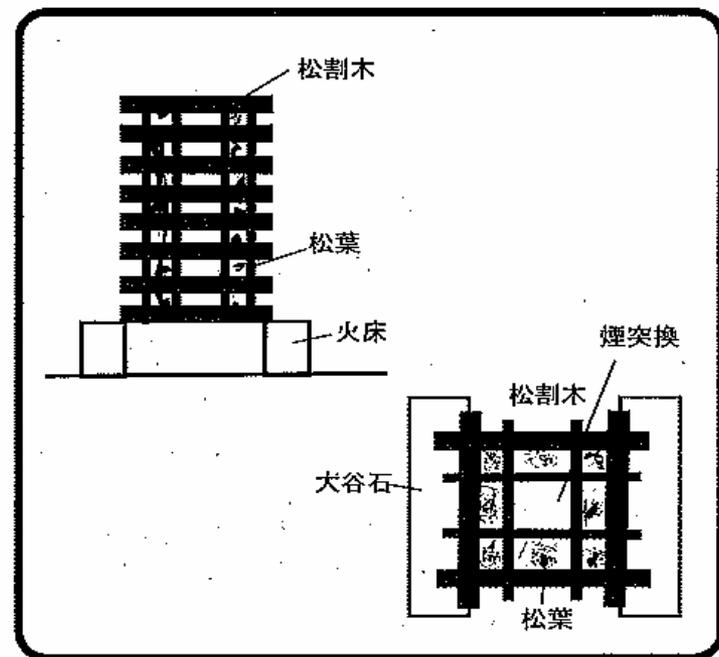


点火主要資材

わりき (ごまぎ)

アカマツの割木(護摩木)を利用

【火床の構成】



## 2. 大文字保存会の概要

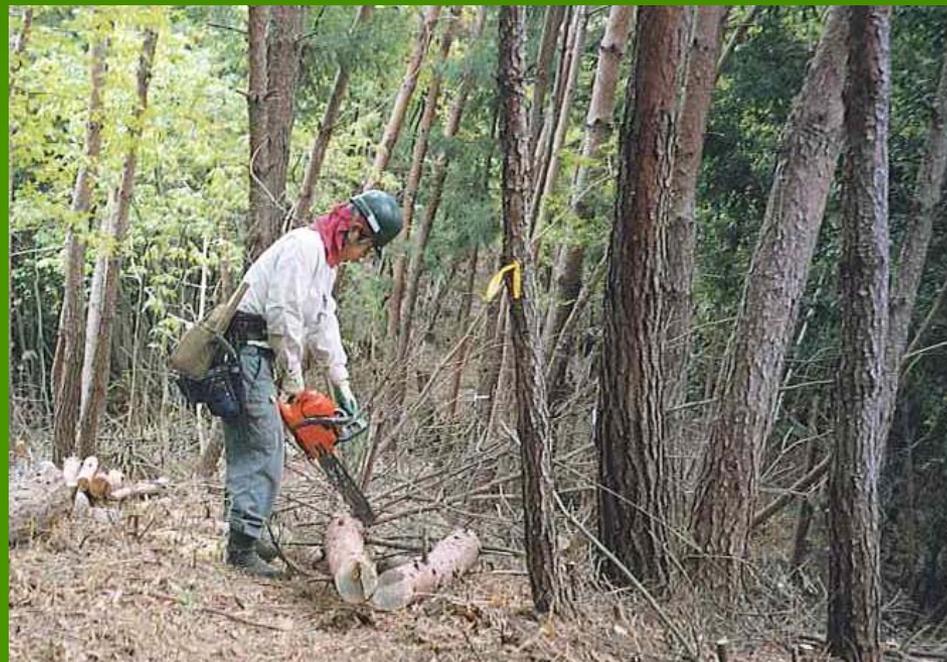
共有林から送り火用の  
割木を自給



整備不足、  
松くい虫被害により、  
アカマツが激減



「大文字送り火」の  
継承が困難に



松くい虫被害木 伐倒作業

# 3. マツ林再生の取組

(1) 国有林による取組

(2) 大文字保存会との連携

(3) その他関係者との連携

# (1) 国有林による取組

- 松くい虫被害木  
伐倒

被害本数  
毎年約50本

被害の拡大を  
抑制



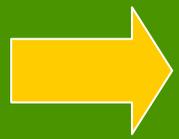
伐倒作業(薬剤処理中)

# (1) 国有林による取組

■ 樹幹注入 計95本

・平成4年  
～19年 57本

・平成20年 38本



アカマツ大径木  
を保護

20年度 樹幹注入施行中

# (1) 国有林による取組

## ■ 除伐と 地搔

アカマツ適地の  
貧栄養型土壌に  
するための作業

実施面積

毎年 約1ha弱ずつ



地搔作業

→ アカマツの生育に  
適した環境づくり

## (2) 大文字保存会との連携

### ■ 「送り火」行事へのアカマツ伐倒処理木の提供



送り火用に提供した  
アカマツ伐倒処理木



8月16日 火床の準備中



当日使用した割木の約1割が国有林材

## (2) 大文字保存会との連携

- 隣接箇所における同時期の除伐・地掻の実施



← 大文字保存会 共有林

境界

→ 銀閣寺山国有林

→ 国有林と共有林のアカマツを一体的に整備

# (3) その他関係者との連携

- 高島屋ボランティアによるマツ林再生への協力
- 地元中学生の職場体験

- ・除伐
- ・地掻
- ・抵抗性マツの植栽
- ・試験地におけるマツ稚樹発生量調査

- 専門家の参加による現地検討会の開催

- ・試験地における地掻効果の検証



## 4. 成果と考察

### ■ マツ林再生について

①松くい虫被害木の伐倒駆除

→被害の拡大を抑制



②樹幹注入実施

→アカマツ大径木を保護

③除伐・地掻の実施

→アカマツの生育に適した環境づくり

# 4. 成果と考察

## ■ 大文字保存会との連携

### 1. アカマツ伐倒処理木の提供

- ・木材の有効利用
- ・アカマツを使った伝統行事の保存に寄与

### 2. 一体的なアカマツ林整備

地域から非常に高い  
評価を得た

送り火に松枯れの薪

大文字山 国、保存会に格安提供

京都市内で16日に行われる「五山送り火」の一つ、「大文字山」（左京区）の送り火で、マツクイムシ被害で伐採された国有林のアカマツが薪として使われることになった。林野庁京都大阪森林管理事務所（上京区、約24秒）から伐採した

区）が、薪の確保に苦慮していたNPO法人「大文字保存会」に格安で提供した。五山送り火に国有林を活用するのは初めてという。大文字山北側に位置する「銀閣寺山国有林」（左京区、約24秒）から伐採した

長さ約1坪のアカマツ55本。大文字に使う薪の約1割に相当する量で、一般的な取引価格の1割ほどの値段で払い下げた。大文字用の薪は、保存会が共有林でアカマツを伐採してきたが、近年、松枯れ被害のため調達が難しくなっていたという。

こうした保存会の窮状を知った同事務所が、これまで伐採したまま山に放置していた木材の活用にもなる、協力を申し出たという。

同保存会の長谷川綾二・副理事長(63)は「木材の提供はありがたい。このまま山を放置すれば、いずれ薪を調達できなくなり、国とも連携して山林整備を進めたい」と話している。

平成20年8月14日読売新聞(朝刊27面)

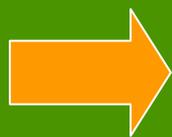
# 4. 成果と考察

## ～取組を通じて～

アカマツ林は**日本文化**にとって重要

- 資材として活用
  - ・建築材
  - ・暖房用資材
  - ・燃料
  - ・土木用資材 など
- 精神面での価値

国有林として**伝統文化の継承**  
に貢献することが重要





～おわり～